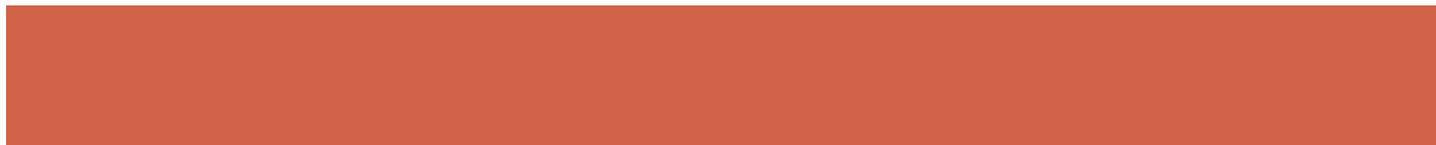


# 西予市の課題について



# 1. 西予市の状況（強み/課題）

# 1. 西予市の状況（強み/課題）

<b>人口 世帯</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・総人口は一貫して減少（H27時点で38,919人）。</li><li>・高齢化率は県平均と比較しても高い（H27時点で40.8%）。</li><li>・総世帯数は減少、単身世帯は増加。</li></ul>
<b>土地利用 開発動向</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・都市計画区域では「建物用地」が増加しているが、人口は減少している→町の低密度化。</li><li>・用途地域内部（まちなか）よりも用途地域外部での開発が多い。</li><li>・都市計画区域は宇和・野村・三瓶の一部のみに指定、用途地域の指定は僅か。</li><li>・大型小売店舗は、まちなかに一定集積。</li><li>・全国と比較して極めて空き家率が高く、ストックが活用されていない。特に用途地域内で空き家が多い。</li><li>・都市計画区域において、三瓶の用途地域で空き地が増加傾向。</li></ul>
<b>都市機能</b> <small>（生活利便施設）</small>	<ul style="list-style-type: none"><li>・生活利便施設の徒歩圏人口カバー率は高くない（商業：42.9%、医療：56.1%、福祉61.4%）が、用途地域周辺には集中して立地。</li><li>・都市計画区域外に施設が少ない。</li><li>・生活利便施設の徒歩圏における人口密度が低い（5%前後）。</li><li>・将来的に、商圈人口が維持できないおそれ→施設の撤退が懸念。</li></ul>

# 1. 西予市の状況（強み/課題）

<p>交通</p> <p>(公共交通)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・公共交通の徒歩圏人口カバー率は高い(97.6%)が、基幹的公共交通は少ない(カバー率35.3%)。</li><li>・地域間を跨いだ移動は少ない(卯之町の拠点性が弱い)。</li></ul> <p>自動車に依存した交通体系。公共交通による地域間移動も少ない。</p>
<p>健康 福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・医療機関は一定充実(まちの周縁部には少ない)。</li><li>・自動車に依存し、「歩いて暮らせるまち」ではない。</li></ul>
<p>防災 安心安全</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市域には土砂災害の警戒区域・危険区域が点在。</li><li>・宇和、三瓶の市街地は水害が懸念(肱川浸水/津波浸水)。</li><li>・空き家が多く、災害時の倒壊・延焼等が懸念。</li><li>・他都市と比較すると、緊急避難場所までの距離が遠い。</li></ul>
<p>経済 財政</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・商業床面積あたりの売上高が低い。商業施設が充実していない。</li><li>・まちなかで地価の低下が顕著。</li><li>・同規模他都市と比較しても財政指数が低く、財政基盤がぜい弱。</li><li>・市域に点在する公共施設の更新費用の増大が懸念。</li></ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「ジオパーク」の指定。卯之町の町並みと「はちのじ」まちづくり。</li><li>・小学校の統廃合が進む。</li></ul>

# 参考 西予市と他都市の比較

■国の資料(都市構造の評価に関するハンドブック)に基づき、都市構造に関する評価指標を算出。  
 国が算出した人口10万人以下都市(または人口30万人都市)の値と比較し、偏差値を算出。

評価項目	評価指標	単位	西予市 結果 (独自算出)	10万人以下都市 (算出されていない場合、 30万人都市と比較)		評価指標 (レーダーチャート)	西予市 偏差値 (独自算出)
				平均値	標準偏差		
①生活 利便性	日常生活サービス 徒歩圏充足率	%	28.9	29.7	16.3	日常生活サービス 徒歩圏充足率	49.5
	S45年D I D人口密度	%	56.6	43.8	13.6	S45年D I D人口密度	59.4
	医療施設徒歩圏人口 カバー率	%	56.1	75.7	12.1	医療施設徒歩圏人口 カバー率	33.8
	福祉施設徒歩圏人口 カバー率	%	61.4	73.1	15.8	福祉施設徒歩圏人口 カバー率	42.6
	商業施設徒歩圏人口 カバー率	%	42.9	65.0	12.2	商業施設徒歩圏人口 カバー率	31.9
	基幹的公共交通路線の 徒歩圏人口カバー率	%	35.3	39.9	19.6	基幹的公共交通路線の 徒歩圏人口カバー率	47.6
	公共交通利便性の高い エリアに存する住宅の割合	%	38.7	45.7	13.6	公共交通利便性の高い エリアに存する住宅の割合	44.8
	医療施設の利用圏平均 人口密度	人/ha	5.3	20.1	11.5	医療施設の利用圏平均 人口密度	37.1
	福祉施設の利用圏平均 人口密度	人/ha	4.2	18.6	10.9	福祉施設の利用圏平均 人口密度	36.8
	商業施設の利用圏平均 人口密度	人/ha	6.8	23.5	11.2	商業施設の利用圏平均 人口密度	35.2
	公共交通の機関分担率	%	2.2	3.1	4.3	公共交通の機関分担率	48.0
	市民一人当たり 自動車走行台キロ	台キロ/人	19.5	17.2	9.6	市民一人当たり 自動車走行台キロ (逆数)	47.6
公共交通沿線地域の人口密度	人/ha	1.2	15.8	11.8	公共交通沿線地域の人口密度	37.6	

# 参考 西予市と他都市の比較

評価項目	評価指標	単位	西予市 結果 (独自算出)	10万人以下都市 (算出されていない場合、 30万人都市と比較)		評価指標 (レーダーチャート)	西予市 偏差値 (独自算出)
				平均値	標準偏差		
②健康 ・福祉	徒歩、自転車の機関分担率	%	19.2	22.7	4.2	徒歩、自転車の機関分担率	41.6
	高齢者徒歩圏に医療機関 がない住宅の割合	%	25.2	65.9	15.6	高齢者徒歩圏に医療機関 がある住宅の割合	76.0
	高齢者福祉施設の1km 高齢者人口カバー率	%	60.8	67.0	16.7	高齢者福祉施設の1km 高齢者人口カバー率	46.3
	保育所の徒歩圏 0-5歳人口カバー率	%	57.6	65.7	13.2	保育所の徒歩圏 0-5歳人口カバー率	43.9
	歩道設置率	%	29.0	44.0	20.9	歩道設置率	42.8
	高齢者徒歩圏に公園がない 住宅の割合	%	33.8	57.7	25.1	高齢者徒歩圏に公園がある 住宅の割合	59.5
③安全 ・安心	市民一人あたりの 交通事故死亡者数	人	0.24	0.6	0.3	市民一人あたりの 交通事故死亡者数 (逆数)	61.5
	最寄り緊急避難所まで の平均距離	m	972.9	722.5	361.7	最寄り緊急避難所まで の平均距離 (逆数)	43.1
	空き家率	%	15.5	7.3	3.1	空き家率 (逆数)	23.9
④地域 経済	従業員一人あたり 第三次産業売上高	百万円/人	10.3	8.4	4.0	従業員一人あたり 第三次産業売上高	54.7
	都市全域の小売商業 床面積あたりの売上高	万円/m <sup>2</sup>	62.1	71.0	10.7	都市全域の小売商業 床面積あたりの売上高	41.7
⑤行政 運営	市民一人あたりの歳出額	千円	698.4	728.2	577.7	市民一人あたりの歳出額 (逆数)	50.5
	財政力指数	-	0.2	0.4	0.2	財政力指数	43.9
⑥エネルギー /低炭素	市民一人当たりの 自動車CO2排出量	t-CO2/年	1.6	1.3	0.5	市民一人当たりの 自動車CO2排出量 (逆数)	43.6

※西予市の値は独自算出。他市は国(国土交通省)が算出・提供しているデータを利用。

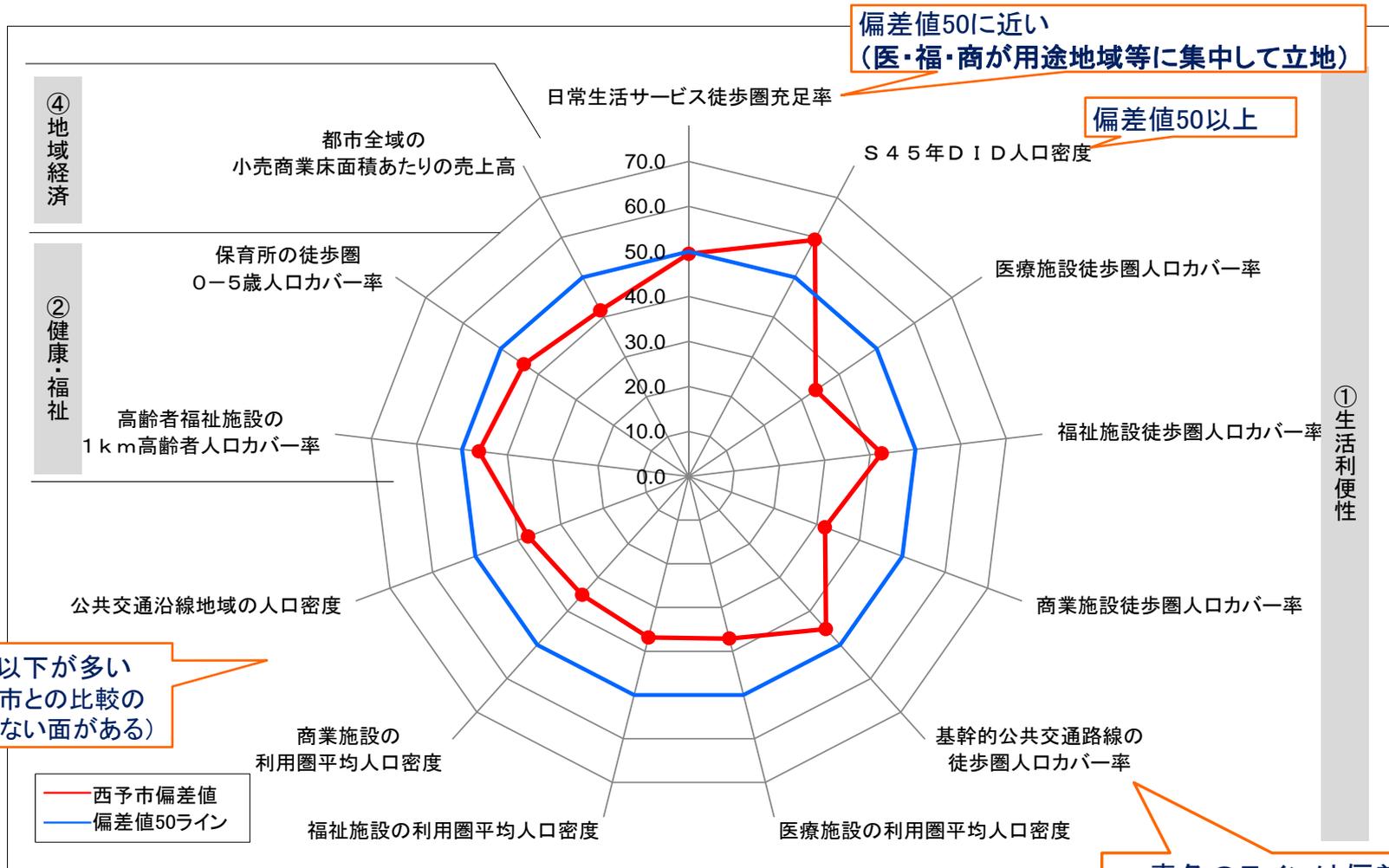
※国算出データは、人口10万人以下都市では算出されていない項目が多いが、ひと回り規模の大きい「30万人都市(人口10~40万人)」では全ての項目が算出されている。⇒表中■は、10万人以下都市では未算出のため、30万人都市と比較した。



# 参考

## 西予市と人口30万人都市（10～40万人の都市）の比較

- ・全国の人口30万人都市（10万人～40万人の都市）と比較し、各項目の偏差値を算出。
- ・偏差値＝50で平均。値が高いほど「集約型都市構造に近い」(≡良い)と言える。



# 参考 西予市と他都市の比較

## ①生活 利便性

(人口10万人以下程度と同規模他都市と比較して)

- ・公共交通の機関分担率は低い。⇒自動車依存の交通体系

(人口30万人都市と比較して)

- ・医療・福祉・商業施設のカバー率は高くないが、日常生活サービス徒歩圏充足率(医療・福祉・商業施設及び基幹的な鉄道駅またはバス停まで徒歩圏で行ける人の割合)の偏差値はまずまず。  
⇒医療・福祉・商業と基幹的バス停(駅)が用途地域に集中して立地
- ・各施設の利用圏での人口密度が低い。⇒将来的な施設の撤退が懸念

## ②健康 ・福祉

(人口10万人以下程度と同規模他都市と比較して)

- ・医療施設や公園まで徒歩圏で行ける範囲に住宅がある程度立地。
- ・徒歩・自転車の機関分担率は低い。⇒自動車依存の交通体系

(人口30万人都市と比較して)

- ・高齢者福祉施設、保育所のカバー率は低い。

## ③安全 ・安心

(人口10万人以下程度と同規模他都市と比較して)

- ・空き家率(逆数)の偏差値が低い⇒空き家が非常に多い  
⇒災害時の危険性、地域の活力、ストック活用など 大きな課題
- ・最寄り避難所までの平均距離の偏差値が低い⇒避難所まで遠い

## その他

(人口30万人都市と比較して)

- ・商業施設床面積あたり売上高が低い⇒商業施設が充実していない